

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	論理回路 B
科目基礎情報					
科目番号	34030		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	制御情報工学科		対象学年	4	
開設期	4th-Q		週時間数	4	
教科書/教材	「計算機工学の基礎」重井芳治 (近代科学社)、プリント配布				
担当教員	松坂 建治				
到達目標					
本講義では、論理代数 (真理値表、論理式、カルノー図)、組合せ回路 (加・減算器、復号器、符号器)、順序回路 (フリップフロップ回路、同期式カウンタ) の基礎知識を習得し、与えられた入出力関係を満たす論理回路を、論理的に設計できる思考力について、身に付けることを目指す。					
【目標レベル】					
1) 論理演算およびデジタル入出力値から真理値表を作成できる。					
2) 論理代数の諸定理やカルノー図を利用し真理値表から論理式を導出でき、組合せ回路 (加・減算器、復号器、符号器) を設計できる。また、順序回路 (同期式カウンタ) を設計できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安	
評価項目1	論理演算およびデジタル入出力値から真理値表を作成することができ、関連する問題に対し、8割以上解答することができる。	論理演算およびデジタル入出力値から真理値表を作成することができ、関連する問題に対し、7割以上解答することができる。	論理演算およびデジタル入出力値から真理値表を作成することができ、関連する問題に対し、6割以上解答することができる。	論理演算およびデジタル入出力値から真理値表を作成することができず、関連する問題に対し、6割以上解答することができない。	
評価項目2	論理式の導出および組合せ回路、順序回路を設計することができ、関連する問題に対し、8割以上解答することができる。	論理式の導出および組合せ回路、順序回路を設計することができ、関連する問題に対し、7割以上解答することができる。	論理式の導出および組合せ回路、順序回路を設計することができ、関連する問題に対し、6割以上解答することができる。	論理式の導出および組合せ回路、順序回路を設計することができず、関連する問題に対し、6割以上解答することができない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	第4学期 開講 この講義では、計算機などで使用される論理回路の設計・シミュレーション手法および回路設計に関する知識や技術について学びます。				
授業の進め方・方法	計算機の発展はますます、人間社会の必需品として今後もなお進歩を続けている。この計算機の論理的な基礎である論理回路について学び、基礎知識を身に付ける。また、情報処理を支えるデジタル回路の構成法について理解し、学生自身が論理回路を自ら設計できる能力を身に付ける。				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>回路図を読み書きできる能力や、論理演算に関する基礎知識を有していることが望ましい。</li> <li>本講義では様々な論理回路を取り扱うため、それらの回路を自身で設計し回路図を描けるよう、自学自習が必要である。</li> <li>講義で取り扱う回路図を丸暗記するのではなく、論理式をもとに回路を設計できる力を身に付けていくことが大事である。</li> <li>レポートについて、期限を守ること。</li> <li>普段からしっかりと事前・事後学習に取り組み報告書作成に臨むこと。</li> </ul>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	4thQ	9週	順序回路 (1)	順序回路について理解でき、組合せ回路との違いについて説明できる。	
		10週	順序回路 (2)	非同期式SR-FF、同期式SR-FF、JK-FF、D-FFについて理解できる。	
		11週	順序回路 (3)	JK-FFを用いたD-FFの設計法、JK-FFを用いたT-FFの設計法について理解できる。	
		12週	順序回路 (4)	D-FFを用いた同期式カウンタを設計できる。	
		13週	順序回路 (5)	JK-FFを用いた同期式カウンタを設計できる。	
		14週	総合演習 学期末レポート	これまでの講義の内容について理解し、演習問題について解答できる。	
		15週	授業改善アンケート	学習事項のまとめを行う。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	情報系分野	計算機工学	ハードウェア記述言語など標準的な手法を用いてハードウェアの設計、検証を行うことができる。	4
	分野別の工学実験・実習能力	情報系分野【実験・実習能力】	情報系【実験・実習】	与えられた仕様に合致した組合せ論理回路や順序回路を設計できる。	4
				基礎的な論理回路を構築し、指定された基本的な動作を実現できる。	4
				論理回路などハードウェアを制御するのに最低限必要な電気電子測定ができる。	4
評価割合					
			レポート	合計	

総合評価割合	100	100
知識の基本的な理解 【知識・記憶、理解レベル】	40	40
思考・推論・創造への適用力 【適用、分析レベル】	40	40
汎用的技能 【論理的思考力】	20	20